

# 共産主義者の結集と 統一をめざす全国会議

まとめ・よびかけ

組織統一準備委員会

1966

認された。

① 準備委員会は、全国段階で組織される。準備委員会は、共産主義者の結集と統一に基本的に賛成する組織が推せんする組織代表および個人によって構成し、全国会議で確認する。

必要に応じ、地方でも結集・統一のための適切な形態が考慮される。

② 準備委員会は、組織統一の達成までの暫定的なものであり、各組織の指導機関ではない。

③ 準備委員会は、諸組織と結集に参加する個人の共同行動を組織するために努力する。委員会の合意を各組織は尊重し、共同行動の強化につとめる。

④ 準備委員会は、組織統一に必要な、思想・理論・政治・組織上の統一をはかるための活動を行ない、必要に応じ、広範に共同の討議をおこすイニシアティブをとる。準備委員会は、全国会議で確認された結集・統一に必要な共同の認識を基盤として、一定の計画をたて、小委員会などを設けて必要な作業を行なう。

⑤ 準備委員会が検討を要する主な問題は、日本の現状分析、日本革命の基本的性格、統一戦線の理論と戦術、共産主義運動の統一と党建設の問題である。

そのさい、組織統一の後において引きつづき追求すべき課題と、組織統一の以前に解決すべき課題とを区別し、それを見さだめることが必要である。少なくとも、以上の諸活動を通じて、組織統一のために必要な政治方針案あるいは行動綱領案と規約案を作成し、ひるく討議にかける。

準備委員会はつとめて、結集をもとめる同志の広範な協力を組織

する努力が必要である。

⑥ 準備委員会の決定は、多数決制とする。少数意見は原則として発表する。

⑦ 準備委員会は、委員長、事務局長、若干の常任委員を互選する。

五

会議は、二十八人の準備委員を選出した。そのうえで「新しく参加する人びとを準備委員にする必要がある場合はそれを増加する権限を準備委員会に委任する」ことを決めた。

六

世話人の問題提起は、討論を組織する上でその役割を果たした。組織統一準備委員会はこの「まとめ」と「よびかけ」にもとづいてその任務を遂行する。

おねがい

★ 「よびかけ・まとめ」にたいする御意見をおよせください。

★ 準備委員会との連絡、運動への参加を希望される方は、御連絡ください。

★ 準備委員会の事務所建設と活動資金カンパに御協力ください

組織統一準備委員会事務局

共産主義者組織統一準備委員会

仮事務所 東京都新宿区四谷二の一

日本共産党（日本のこえ）内

TEL(三三三) 八六四二五

# よびかけ

## 共産主義者の結集と統一をめざす全国会議

情勢はいま、重大な転機にたっています。

二十万をこえるアメリカ軍が、民族の独立と統一、世界平和をもとめるベトナム人民に、あらゆる残虐な兵器をもっておそいかかっています。世界人民は、この無法非人道的侵略行為の拡大を許すなら、核戦争の危機が現実となることを感じています。われわれは深い怒りをもって、アメリカ帝国主義のベトナム侵略をきゆうだんします。

今こそ、ベトナム人民の英雄的なたたかいを支持し、世界人民の共同の闘争によって、侵略者のおさえつけ、平和共存と民族独立のたたかいを新しく飛躍させなければならない時がきているのです。

わが国では、ベトナム侵略に協力する政府と独占資本によって新しい反動攻勢がじりじりとすすめられていることを、われわれは身をもって感じています。

アメリカの「核の傘」の下で、安保条約の延長と憲法改悪、海外派兵などをたくらむ帝国主義的膨張のための具体的措置がつぎつぎとられはじめており、経済恐慌を機会に独占資本の強化再編が労働者、勤労人民を犠牲にして強行されています。そして、

戦後二十年間に日本人民のたたかいによってつくりあげられた民主主義を空洞化しようとする支配階級の攻撃が、民主運動の弱点を巧妙に利用しながら着々と進められています。

労働者階級は広範な国民各層とともに、生活の安定と向上のためのたたかいつづけてきたが、平和と完全な独立、より大きな政治戦線の統一をもとめ、日本の政治をかえなければならぬときがきつたことを自覚しはじめています。新しい段階をむかえた支配階級の攻撃をはねかえす、すすんで新しい日本の未来をきずいてゆくためには、このような情勢を根本的に転換させる強力な清新な政治的指導力の結集が必要となっています。

この時にあたって、われわれは共産主義者の「結集と統一をめざす全国会議」に集まり、労働者階級に基盤をおくマルクス・レーニン主義党の建設、日本共産主義運動の真の統一をめざして組織統一準備委員会を発足させました。

われわれの建設する党は、何よりも労働者階級と勤労人民のねがいこたえ、現実的な要求にねざす闘争を有効におしすすめる党、この闘争を平和共存と民族の完全独立、反独占民主改革の方

向に発展させ、新しい政治的統一をつくりあげて、日本革命の勝利をめざして前進する党です。

この党は、ソ連共産党第二十回大会に始まった国際共産主義運動の革新と新しい展望の上に立ち、モスクワ宣言と声明をつらぬく基本方向を、国家独占資本主義の強化しつつある帝国主義日本で創造的に発展させるために努力し、社会主義への日本の道をきりひらく党です。

われわれは真に現代の要請にこたえる民主的・科学的な党、大衆の利益に献身し、ヒューマニズムの精神につらぬかれ、創意と活力にみちた民主集中の党の建設をめざしています。

この党は現在何よりも要求されている労働者階級の統一、日本共産主義運動の統一、世界共産主義運動の統一を実現するために奮闘します。

われわれは、日本共産党（代々木）の指導が、わが国労働運動、民主運動にあたえている破壊的影響、世界共産主義運動を分裂させ、帝国主義者の侵略を助けているあやまりを克服しなければなりません。われわれはわが国共産主義運動をここにみちびいた責任を深く自覚し、自己批判を発展させ、これを現実の闘争と党建設に生かす決意です。

われわれは、この共通の目標のために苦闘している共産主義者諸君が、組織統一準備委員会へ結集し、共同の事業に参加されるよう訴えます。われわれは過去数年にわたって組織的分立の時期をすごしてきました。しかし現実の情勢は、このような状態を克服して、われわれが結集することを当面の最も重要な課題として

います。この期間に苦しいたたかいつづけてきた共産主義者のさまざまな経験、理論的探究、その成功と失敗のすべてが、われわれの結集のなかに生かされなければなりません。

われわれは、労働者の要求にこたえ職場でたたかえる党を建設し、ともに社会主義日本の道をきりひらくために、労働者諸君が準備委員会に積極的に参加されるようよびかけます。

われわれは、労働者階級を先頭に、先進的な農民、市民、知識人、青年、婦人がひろく準備委員会に結集し、真に国民的基盤の上にたつ党とともに建設するよう訴えます。

われわれは、日本共産党（代々木）の党員諸君が、指導部の誤りを正し、党を根本的に改造するためにたたかい、わが国共産主義運動を統一し、将来かならず単一の党となるために、われわれと協力されるよう訴えます。

プロレタリア党の強味は、一国の労働者階級の団結と万国の労働者の団結を体現しているところにあります。われわれはこの団結の精神を労働者階級のものとするためにふだんに努力します。われわれが、この党を建設し、その力をつよめ、労働者階級とともに前進するならば、日本の労働者階級の歴史的使命はかならず実現できると確信します。

われわれは同志の皆さんが、このよびかけにこたえ、ただちにそれぞれの分野で結集のための具体的討論と行動を開始されるよう心からよびかけます。

# 結集と統一をめざす全国会議のまとめ

共産主義者の「結集と統一をめざす全国会議」は、世話人代表（日本共産党（日本のこえ）と社会主義革新運動全国委員会）の案内状によって、一九六六年三月二十一日から三日間東京で開かれた。会議には日本共産党（日本のこえ）、社会主義革新運動、社会主義統一有志会、全国各地の共産主義者グループの代表、ならびに労働、農民、市民、青年、婦人、平和、文化など各戦線でたたかっている共産主義者百十二名が参加した。会議は世話人代表の問題提起にそって、熱心な討論をおこない次の「まとめ」に基づいて、組織統一準備委員会を成立させた。

一 世界と日本の情勢は、いま重大な新しい局面にたっている。

帝国主義陣営はその内部矛盾を激化させながら、資本主義から社会主義への全世界的移行をはばむため、政治反動を強め、侵略性を増大させている。

世界反動の中心となっているアメリカ帝国主義のベトナムにたいする侵略戦争は、その集中的なあらわれである。今ほど労働者階級の革命的エネルギーとその戦闘力の強化、全世界の広範な平和勢力、反帝国主義勢力の統一がもとめられている時はない。帝国主義の侵略性の増大を許す一因となっている社会主義陣営の不統一、世界共産主義運動の分裂状態を克服することは、まさに全人類の運命をになうものとなっている。まず何よりもすべての社会主義国、民主的・革命的勢力の行動の統一が緊急に必要とされており、その上にたつて、今日の時代に即応した世界共産主義運動の真の統一がたたかいとられねばならない。この事業に成功するならば、われわれは平

和と平和共存そして民族の独立を強めながら、資本主義から社会主義への世界的転換の過程を大きく前進させるより確実な展望を開くことができるであろう。

日本の独占資本と政府は、アメリカ帝国主義のベトナム侵略戦争が強化されるなかで、日韓条約の締結を強行し、日米安保条約の延長をはかりつつ、アメリカ帝国主義の「核の傘」のもとで、新しい帝国主義の膨張の道を進んでいる。それは憲法改悪の野望をはじめ政治反動の強化をともなっている。

独占の高度経済成長の矛盾は、深刻な経済恐慌をひきおこし、しかも物価高はとどまるどころを知らず、労働者階級と勤労国民の生活はますます苦しくなっている。労働者階級は実質賃金の切り下げと全面的な合理化攻勢に直面しており、これとたたかう労働組合にたいしては、独占の強化と再編成にともなう新しい型の労資協調と分裂、御用化の攻撃が執拗に進められている。

このような経済的・政治的・思想的な新しい攻撃に直面して、日

本の労働者階級は、生活の安定と向上、合理化反対などの闘争と、憲法にもとづく平和と中立、完全独立のための闘争をさらに発展させ、この新しい攻撃とたたかう有効な道を切り開き、平和と反独占民主勢力の国民的な政治的統一をつくりあげることが最も重要な任務となっている。反戦・平和の闘争における広範な民主勢力の結集の問題、反独占闘争における国民的基盤の確立の問題など、現実の階級闘争は新しい政治的統一をもとめている。

われわれは、革新的な日本の政治勢力と協力して、この現在の階級闘争の課題を解決するために新しい政治的指導力をつくりあげなければならぬ。

日本共産党（代々木）の指導は、労働者階級のストライキ闘争を妨害し、原水禁運動その他の大衆運動を分裂させ、日本の人民大衆の創造的・革命的エネルギーの成長を阻止するものとなっている。

われわれは、共産主義者の責任をきびしい反省とともに自覚し、組織的分立を克服して、労働者階級と勤労国民の要求にこたえることのできる結集と統一を実現しなければならぬ。われわれは、このような課題にこたえ、日本革命の勝利をめざして、マルクス・レーニン主義党を建設し、日本共産主義運動の真の統一を実現するために、ここに組織統一準備委員会を発足させる。

二 今回の全国会議は、日本における共産主義運動の新しい統一を実現するための貴重な第一歩であった。

しかし、この会議は、日本の革命的エネルギーの多くをまだ結集しえず、革命の事業に同じ志をもつ多くの組織や個人がさまざまな事情と理由からこの会議に参加できなかったことを卒直に認めなければならぬ。それらの組織や個人はもとより、さらに広範な革命

的エネルギーを結集することの重要性が確認された。労働者階級とくに近代的大経営の労働者の結集につとめ、さらに日本の社会のあらゆる領域で新しい未来をめざしてたたかっている労働者、農民、市民、青年、婦人、文化人のエネルギーをひろく結集することの重要性が強調された。日本の階級闘争のなかで育ってきた労働者階級の力と思想を基礎に、学問、芸術の世界での科学的、文化的頭脳と能力をひろく結集するために努力することが強調された。以上は党建設の重要な条件であることが指摘された。

さらに、結集と党建設の仕事は、労働運動をはじめ日本の大衆運動にねざしつつ、それを基盤にして進められなければならない。生産点をはじめあらゆる分野における日常活動を活発にし、大衆との不断の結合を強めなければならないことが強調された。日本の革新政党はこれまで党と大衆団体の正常な関係を打ちたてることができなかった。われわれは大衆団体の自主性を尊重し、これとの間に民主的な関係を確立しなければならない。そのためには、われわれ自身の組織生活を民主的にする必要のあることが強調された。

会議では、当面の結集を進める方法と今後の方向についても、多くの積極的意見がのべられた。また、これまでの結集の進め方やこれを推進してきた組織のなかにある弱点についても、批判的意見がだされた。この会議にたいして疑問をもっている人々を結集させるかどうか、また広範な労働者を結集できるかどうか、真の党をつくるカナメであるという意見がだされた。代々木からひきついてくる否定的なものをわれわれ自身が克服すること、また当面の階級闘争の課題にこたえうる実践力がもとめられていることが強調された。



われわれは、このような立場から、ひきつづき目標を同じくする共産主義者との結集と統一の可能な道をもとめることに努力する。そして、われわれはこれらの諸君が進んで組織統一準備委員会に参加されるよう訴える。

われわれはさらに、平和と民主主義と生活の向上のためにたたかう労働者、活動家諸君がこの結集と党建設の事業に参加されるよう心からよびかける。

さらに、われわれは、日本共産党（代々木）指導部のもとにある党員諸君が、その指導部の誤りを正し、その党の根本的改造と共産主義運動の統一のために奮闘することを期待する。われわれは将来必ず単一の党に統一される日のあることを確信し、そのために奮闘する。

### 三

会議で、最も中心的に討論されたのは建設すべき党の性格についてであった。日本共産党（代々木）の思想的・政治的・組織的指導の誤りが、ふかい反省とともに批判された。そして「建設すべき党の性格について強調すべき点」として、次の提案がなされ、その基本的趣旨を全員が確認した。

① 日本の労働者階級、勤労国民の現実的な要求にねざす具体的な闘争を、平和共存、平和と民主主義と社会進歩をめざす反独占民主的改革の方向にそっておしすすめることで大衆に服務する真の前衛党、そのことを通じて現代において全人類の解放をめざすプロレタリアートの国際連帯の新しい道の団結に寄与していくような党をつくる。

このことはソ連共産党第二十回大会以後に追求されるようになった国際共産主義運動の新しい路線を、われわれの国において独自の

同時に、日本共産党（代々木）における「民主集中制」の名による党内民主主義じゅうりんの苦い経験にたつて、党内民主主義の実現、その組織的保障を確立すべきことが確認された。こうしてこそ、自覚ある規律にもとづく党活動が保証される。党と大衆との関係においても、また党内の組織運営においても、真に民主的な党を建設することが強調された。

大衆運動と党内民主主義との関係、少数意見の問題、討論の自由と行動の統一の問題、日本のような高度に発達した国家独占資本主義体制のもとでの複雑な階級運動に即した民主集中制の問題など、組織統一準備委員会の活動のなかで、さらに思想的、理論的、実践的に深めらるべき多くの重要な問題が提起された。

② われわれは日本共産党の担ってきたわが国労働者階級の革命的伝統を継承し、発展させる。と同時に、わが国の階級運動に損失を与えたその否定的な遺産を一掃し、思想的にも実践的にもこれを克服するために努力する。われわれは、党活動のレーニン主義的基準の破壊された過去の反省を、日本の共産主義運動の歴史に照らして行ない、それを現代の要請にこたえて発展させるよう努力する。とくに、指導的同志はその先頭に立つことがもとめられた。

③ われわれの建設する党の権威は、みずから革命の実践を通じて、日本の現実のなかで築きあげられる。こうして、プロレタリア国際主義を正しく発展させることができる。

④ モスクワ宣言・声明の位置づけについて、次の「まとめ」委員会の案が、会議に報告され、確認された。

「われわれは、マルクス・レーニン主義の立場からソ連共産党二十回大会をもつて始まった国際共産主義運動の自己革新の事業を

に生かそうとするものであり、またモスクワ宣言・声明にもつらぬかれた基本的なたたかひの方向を高度に発達した資本主義国（帝国主義・国家独占資本主義体制）において、各国共産党ともどもに創造的に発展させていくことでもある。同時にこれは、日本共産党（代々木）のさらけだしているあやまりと欠点を正しく克服する道でなければならない。

② 経験の古いものも、中くらないものも、すべてみな、われわれの内部にひそむ弱点欠点を克服するために努力し、新しい世代の同志ともにお互いのあいだにいささかの疑心暗鬼を生ずることの余地のない、相互信頼にみちた真に民主主義的、科学的な党組織、人間の解放を熱烈にめざすということでヒューマンイズムであるとともに、党の品性、品格がヒューマンな党をつくる。

③ 今日の複雑な現実をするべくえぐるべく多面的な分野にわたってつとめている学問芸術の世界における科学的な頭脳と能力、探求と創造の才能、力量を、われわれのものとして広く結集し、具体的な闘争の多面化と有効性のために生かすことができるような党をつくる。同時にそのことが国民文化の建設向上の基礎となるような党をつくる。

討論は、党内民主主義の問題や過去の共産主義運動の誤りについての自己批判の問題、さらにモスクワ宣言・声明の位置づけなどについて展開された。

① 党内民主主義の問題は、建設すべき党の基本的性格にかかわるものとして、意見が活発に交わされた。討論の結果、マルクス・レーニン主義党の組織原則は「民主集中制であること」を確認した。

支持し、日本においてこれを推進することを決意する。これこそは、社会主義への世界的移行を今日の段階で可能にする革命的主体の国際的形成と諸国における共産主義運動の国民的基盤の確立の過程なのである。

われわれはモスクワ宣言・声明がこのような新しい情勢のなかで生まれたものであることを確認し、その創造的発展のために努力するものである。

これについては、会議で「まとめ」委員の一人が保留の意思を示した。それは文案の後段を「われわれはモスクワ宣言・声明が大局的にはこのような革新的潮流のなかで生まれたものであることを確認する」とすべきであるという意見であった。また会議では「自己革新」という用語について、それが「世界共産主義運動で一般に使用されておらず、また二十回大会の切り開いたものは自己革新などといわれるものだけではない」という理由で、準備委員会において再検討されたいという希望意見が表明された。

⑤ さらに会議では、われわれの建設すべき党が大衆の要求に敏感に即応し、戦闘性と実行力をもち真に大衆に服務する党でなければならないということが強調され、生産過程と社会生活で重要な役割を担っている青年、婦人を広く結集する党であることがもとめられた。

### 四

会議は、「労働運動をはじめ、大衆運動にねざしながら日本の共産主義運動の統一をめざし、共産主義者の結集をすすめる党組織をつくることを確認し、これを前提として組織統一準備委員会を発足させる」ことを全員一致して決定した。

組織統一準備委員会の構成と任務については、会議で次の通り確